



TITLE:

雑纂

AUTHOR(S):

CITATION:

雑纂. 日本外科宝函 1934, 11(4): 915-929

ISSUE DATE:

1934-07-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203477>

RIGHT:

雜 纂

第三十五回日本外科學會總會演說傍聽記

第 一 日

□ □ 子

2) 縫合用絹絲ノ實驗的研究

慶大外科 小 野 田 肇

日本外科學會ニ於テハ外科學ノ基礎的ナ研究ノ發表ハ甚ダ少ナイ。獨逸外科學會ニ於テ Catgut ノ消毒が大問題ニナツテキルノト對比シテ奇異ノ感ガアル。

我々ハ 1) ノ宇山氏及ビ本題ノ演者ニ十分ノ期待ヲ持ツテキタ。殊ニ宇山氏ノハ消毒困難ナ腸線ノ完全、理想的の消毒法ト言フノデアツテ非常ナ期待ヲ持ツテキタノデアルガ何故ニ缺席ナドシタノデアルカ。多數ノ聽衆ヲ東京マデ招待シテ置キ乍ラ『主人缺席』ハ無責任デハナイカ。出演缺席ノ電報位ヲ打ツテ會員ニ陳謝スベキデアツタ。

2) ノ絹絲ノ研究モ相當ニ面白イ。演者ノ實驗の方法ガ全部正當ナモノトシテ、3%ノ_Lオキシフル₇デ絹絲ノ完全ナ消毒ガ出來ルトスレバ大變便利デアラウ。此様ナコトナラ皮膚(手)ノ消毒ニモ沃度ヲ廢シテ_Lオキシフル₇ヲ使用スベキデアルガ、從來效果的ト考ヘラレテ居ル沃度ガ_Lオキシフル₇ニ劣ル結果トナツタノハ一寸異様ニ感ゼラレル。

3) 創傷ノ物理的性状(特ニ其ノ溫度ニ就イテ)

金大熊野御堂外科 成 瀬 桓

演者ハ電氣檢溫器ヲ用ヒテ、炎症ノアル所ハ局所溫度ガ高く、炎症ガ治癒シテ肉芽ノ性状ガ良クナルト溫度ガ下ルトイフ事ヲ立證シタ。我々が診斷ヲ下スタメニ其ノ補助トシテ種々ナ機械ヲ使用スル事ハ差支ヘナイ。否、結構デアル。併シ、臨床家トシテ常ニ心スベキ事ハ、物々シイ道具ヲ用ヒズニ、出來ルダケ正確ナ診斷ニ達セントスル努力デアル。其ノ本末ヲ顛倒スル時、臨床家トシテノ發達向上ハ靜止(退步)スルデアラウ。

他ノ檢溫法ヤ診斷方法ト比較シテ電氣檢溫器デコソ始メテ診斷ガツクト言フ様ナ事ヲ立證シテ貰ハネバ kontrolllose Arbeit デアツテ學術上ノ業績トハ申サレス。

4) 諸種溫浴ノ創傷治癒ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究

北大柳外科 柳 壯 一

(他3名)

5) ト共ニ何レモ未完成ノ仕事デアツテ評スル程ノ事モナイ。唯、本演說ニ於ケル様ニ 1ツノ教室デ澤山ノ教室員ガ寄り合ツテシタ仕事ヲ其ノ教室主任ガ纏メテ發表スルノハ親切ナヤリ方デ聽ク方モ了解ニ便利デアル。

7), 8), 9) ノ各題ハ何レモ全身麻醉、直腸麻醉ニ就テノ研究デアツタ。由來西歐諸國ニ於

テハ「麻醉」ハ重要ナ研究題目ノ様デアル。Lアヴェルチン¹ 直腸麻醉ガ喧シク言ハレタ時モアツタ。我國デモ一應ハ眞似テ見ナイト氣ガ濟マヌラシイ。

我々ハ局所麻醉デ如何ナル手術デモヤツテキル。ソシテ何ノ不都合モ感ジナイ現在ノ狀態デハ今更全身麻醉ヤ直腸麻醉ヲ研究スル必要モナイ様一思フ。

併シヤルナラバ、モツト根本的ナ研究ヲスル人ハ無イカ。即チ全身麻醉デハ患者ハ何等疼痛ヲ訴ヘナクテモ手術野ニ於ケル發痛の刺激ガ Medulla oblongata ノ循環及ビ呼吸ノ中樞ヲ間斷無ク刺激シテキルカラ術中乃至術後ニ於テ不快症狀ガ起リ易イ。ソレニ反シテ局所麻醉ハ傳達麻醉デハヨシ患者ガ多少疼痛ヲ訴ヘテモ夫ハ輕微デアツテ決シテ手術野ニ於ケル發痛の刺激ノ全部ガ Medulla oblongata ノ上記2ツノ中樞ヲ遠慮ナシニ刺激シテキル次第デハナイ。ソレデアルカラ此ノ後ノ麻醉方法ノ方ガ手術中多少疼痛ハアツテモ術中術後ノ不快症狀ガ輕微デアル。是ガ『全身麻醉』ト『局所麻醉』トノ根本的ノ相違デアルガ、是ヲ實驗的ニ鮮明ニ立證スル人ハ無イカ。

9) ヘノ追加, 即チ Avertin 麻醉中絶劑トシテ Coramin ノ i. v. 或ハ i. m. ノ注射ハ ソレガ眞實ナラバ注目シテ良イ。Scopolamin 中毒ニ對シテモ奏效スルモノデアル。

12) 嚔丸移植ト基礎代謝

北大西川外科 三 上 二 郎

斯ウ曰フ演題デ學會デ物ヲ言フノニハ症例ガ少ナ過ギル、殊ニ腹筋内へ移植シタ嚔丸ノ運命ガ檢索サレテキナイ事ヲ遺憾トスル。勞力ハ大デアルガ診斷・治療・豫防ニ向ツテノ實用價值ハ極メテ渺ナイ仕事デアル。

追 加 2.

藤 浪 修 一・岩 城 達

肉腫ガ Impedin ヲ含有スル事、從テ肉腫ガ微生物性ノモノナル事ハ既ニ青柳、平尾兩氏ニ依ツテ報告サレタ。茲ニ又藤浪、岩城兩氏ニ依ツテ、前者ハ肉腫ノ廣汎ナ種類ニ互リ、喰菌現象ヲ指標トシテ、後者ハ血中凝集素產生ヲ指標トシテ何レモ肉腫組織ノ Impedin 反應ヲ證明シ、『肉腫ノ成因ハ微生物性』デアル事ヲ斷言シタ。コレハ無論鳥瀉教授ノ主張デアル。

藤浪氏ニ依レバ Röntgen 線ガ肉腫ニ奏效スル理由ハ Röntgen 線ガ肉腫組織ノ有スル Impedin ヲ破却シタ結果、喰菌作用ガ旺盛トナル爲デアルト説クノハ極メテ面白イ。斯クテ、行キ詰ツテ居タ「腫瘍」ノ世界ニ新シキ研究方向ヲ示シタノハ慶賀ニ堪ヘナイ。

東京醫事新誌本年6月23日發行第2884號ニ本間武吉ト曰フ人ガ「イムベデン」ハX線ニテ破却サレルコトハ既ニ石谷・宇野諸氏が報告シテ居ル（無論鳥瀉教授ハ1917年ニ夫ヲ發表シテ居ラレル）ト前置キシテ『所デ肉腫ノ「イムベデン」モ同様破壊サレル事ハ當然デアルガ云々』ト述ベテキル。

何ヲ言ツテキルノデアルカ。本間氏ノ口振りデハ肉腫ニハ當然「イムベデン」ガ含有サレテキルモノデアル事ヲ自明ノ事ノ様ニシテキル。藤浪・岩城氏等ノ報告ノ最頂點ハ『人間ノ癌ハ「イムベデン」ガ立證サレナカツタガ、人間肉腫デハ除外例無シニ「イムベデン」ガ立證サレタ。

ソレデアルカラ肉腫發生ノ原因ハ微生物性デアル』ト言フノニ在ル。是ガ此ノ演說ノ聽キ所デアル。夫ヲ諒解セズニ『肉腫ハ當然「イムベデン」ヲ含有シテキルモノデアル』カノ如キ說話ヲスルノハ全く以テ情ケ無イ事デアル。モ少シ報告ノ核心ヲ把握スル様ニシテハドウカ？

悪性腫瘍細胞ハX線ニ對シテ健常細胞ヨリモ抵抗力ガ弱イト曰フノガX線治療ノ根本デアル。然ルニ同ジク悪性デモ癌腫ハ殆ンド治ラズニ、肉腫ノ一定%ハ殆ンド全治スルノハ如何ナル譯デアルカ。「イムベデン」ノ有無ノ關係ガ此ノ兩者ノ差ヲ説明スルモノデアルト言フノガ藤浪氏ノ見解デアル。今日マデ演者以外ノ何人ガ此ノ兩者治療ノ差異ヲ説明シ得タ者ガアリマスカ？ 誰一人トシテ夫ヲ説明シタ人ガ無イノデアル。

先方ニモ當方ニモ双方ニ田地ガアルナラバ本間氏ノ所謂我田引水モ出來ルガ藤浪氏1人ダケガ『説明ノ田』ヲ所有シテ居ルノミデアル際ニハ我田引水ト言フ様ナ事ヲシタクテモ出來様ガナイ。上ニ述べタ明白ナル差異ヲ説明シ得ル藤浪氏以外ノ他ノ田地ノ所有者ハ一體誰デアルカ、姓名ヲ知りタイモノデアル。

茲デ想ヒ出スガ、4、5年前—日本外科學會デ人間ノ癌ガ免疫血清(?)ノ注射デ治癒シタトカ何トカ述べ立テ、烏瀉教授ノ「補體」ニ關スル Horror autotoxicus (Ehrlich)ノ説明ニ楯ツイテ居ツタ研究者ガアツタガ、其人々ハ其後何處ヘ消エ失セタノデアルカ。『ドーデス、人間ノ癌ガ其注射デ治リマシタカナ?』。

14) Locus minoris resistentiae ノ研究

京大外科 吉 田 久 士

皮下結締組織及ビ筋肉ニ於テ Locus minoris resistentiae ヲ實驗的ニ證明シタノハ面白イ。更ニ是ニ依ツテ局所性自働免疫ノ獲得ガ端的ニ證明サレ、烏瀉教授ノ喰細胞免疫學說ヘノ直接ノ證據ガ1ツ増加シタ。同時ニマタ煮沸免疫元ノ對「ワクチン」優秀性ノ立證モ頗ル鮮カデ何人モ追從モ出來ヌシ、文句ノツケ様モナイデアラウ。痛快極マル研究デアル。

15) ノ追加

九大外科 河 野 信 勝

面白イ着想デアル。糖尿病ト外科的疾患トノ緊密性ガ幾分デモ明白ニナツタ事ヲ喜ブ。

22) 所謂特發脫疽ノ研究

新潟中田外科 中 田 瑞 穂

演說ノ仕方ハ用心深く流石ニ老巧デアル。症例ハ少ナイケレド纏メ方ハ大變上手デアル。

演者ガ特發性脫疽ノ保存的療法ヲ企圖スルヤ終始一貫、頑張り通シテキル勇氣ト忍耐トハ賞賛ニ値スル。

周知ノ如ク、脫疽ノ疼痛ハ最モ堪ヘ難キモノ、1ツデアル。コノ爲ニ患者ハ狂氣ノ様ニナリ、自殺ヲサヘ企テル者モアリ、醫者トシテモ坐視スルニ堪ヘヌ事モ多イモノデアル。此ノ苦痛ヲジツト辛捧サセル事ハ却々困難デアル。中田教授及ビ教室員ハ心ヲ鬼ニシテ頑張ツタノデアラウ。是即チ言フガ如クニ壞疽ガ治ラヌコトノ反證デコソアル。

シカシ末梢ガ壞疽ニ陥ツテ來ルト、ソレカラボツボツ『脫疽』ハ治ツテ行クトハ、サテモ變妙ナ物ノ言ヒ方デアル。壞疽ガ一時起リカケタガ併シソレガ恢復シテ健常ノ如クナツタノナラ

バ『脱疽が治ツタ』ト言ヘルガ、壊死ニ陥ツタ組織が壊死ノ儘デ周圍健常組織カラ分界サレテ脱落シタノデハ脱疽ト曰フ病氣が治ツタトハ言ハレナイ。ソレトモ中田教授ノ臨床デハ特發脱疽患者ニ「末梢部ノ壊疽」ガ現ハレルト、其ノ時期カラシテ動脈管ノ閉塞性內膜炎が消退シ、一旦現ハレカケタ壊死組織モ再ビ蘇生シテ健常トナルノデアリマスカ？

『特發脱疽ト曰フ疾患ハ其ノ本然ノ特長トシテ、壊死部ダケガ分界脱疽スルト其ノ跡ハ癰痕形成デ兎ニ角ニ創液が漏出セヌマデニ上皮被覆ヲ遂ゲ得ルモノデアル』ト曰フ認識ヲバ、イキナリ『壊死が起リカケルト脱疽ハ治ル』ト曰フ形式デ表示スルノハ恐レ入ル次第デアル。

壊死組織が脱落シテ其ノ創面ガ癰痕ニナツタノハ脱疽ニ原因スル病的損傷 (pathologische Verletzung) ガ第二期治癒 (sekundäre Heilung) ヲシタノデアツテ毫モ『脱疽ト曰フ疾患自體』ガ治癒シタノデモナケレバ又ハ『壊疽ニ陥ツタ組織』ガ治ツタ(蘇生シタ)ノデモナイ。此ノ様ナコトヲ直グ様『脱疽が治ツタ』ナド、主張サレテハタマラス。

マタ壊死ガ發生スル迄ノ間ハ特發脱疽患者ハ隨分劇シイ症状デアルガ、一旦少シデモ「壊死」ガ發現シカケルト其ノ時ヲ分界トシテ諸症ガ緩解シ、一旦起リカケタ壊死モ治ル(蘇生ス)ト言フナラバ面白イガ、事實ハ然ラズ、壊死ガ起リカケルト一層諸症(特ニ自發痛)劇甚トナルモノデアル。壊死性變化ガ進行シテ全ク壊死脱落スルカ或ハ全身循環系カラ生理的ニ遮斷サレルト茲ニ始メテ自發痛モ緩解スル。ソレハ當然デアル。此様ニシテ諸症ヲ我慢サセテ居ルコトガ出來レバ、動脈管腔ノ血液輸送力ニ相當シタダケガ殘存シテ其他ハ壊死脱落シ創面モ重大ナル二次的感染無キ限り癰痕性ニ上皮被覆ヲ遂ゲ得ルノデアル。コレハ「脱疽」ガ治ツタノデハナイ、組織壊死脱落后「創面」ガ上皮被覆ヲ遂ゲタマデノコトデアル。

「壊死ガ發生スルト脱疽ハ治ル」ト言フノハ非常ニ誘惑性ニ富ンダ表示デアルガ、其實非常ナル Paradox デアル。此際一旦壊死ニ陥ツタ組織ガ再ビ蘇生シテ健常ニ復歸スルノデナケレバ「脱疽ハ治ル」トハ謂ハレヌモノデアル。而シテ一旦壊死ニ陥ツタ組織ガ治ルノハ死人ノ蘇生ヨリモ更ニ不合理デアル。壊死細胞(組織)ガ蘇生シタナラバソレハ壊死デハナカツタノデアル。中田教授以テ如何トナスカ。

患側組織ノ酸素消費ニ關シテモ中田教授ハ「少シモ O_2 ハ消費サレテ居ラス」ト言ハレタ。其様ナコトハ斷然アリ得ナイ。無論患側デハ組織細胞ノ生活力が正常デハナイカラ健常組織程ニハ O_2 ヲ消費セヌデアラウ。壊死ニ陥ツタ程度ガ進行スルニ從テ酸素消費ハ減少スルデアラウガ『チツトモ酸素ヲ消費セヌ』ナドハ嘘デアル。コノ様ナコトハ常識デ判明スル。一々實驗セネバ判ラヌ程ノ事柄デハナイ。

中田教授ノ演説ガ濟ムト會長ハ何ヲ思ツタカ起立シテ御禮ノ辭ヲ述ベタ。之ニ對シテ中田教授ハ「特ニ長時間ヲ使用シタ私コソ御禮申スベキデ、會長ノ方カラ御禮ヲ言ハレル筋ハナイ」ト返サレタ。至極尤モダト思フ。一會員ノ演説ニ對シテ會長ガ一々起立シテ御禮ナドヲ述ベルノハ醜態デアル。會長ハ儀禮的ナ御座ナリノ台辭ヲ述ベル事ヲ止メテ、モット突キ込ンダ内容

ノ批判ヲナサレタ方が學術的デ良イト思フ。其爲ノ會長デコソアル。

外科學會ノ會長席ニ坐ル人ノ仕事ガ只『御追加, 御討論ハアリマセンカ, (一寸間ヲ置イテ)デハ何々君……』ト述ベル事ダケダトシタラ, 盲目カ聲デナイ限リハ中學生ニダツテ出來ルデアラウ。一瞬時モ會長席ヲ去ラスノハ演說ヲ批判シ, 討論ヲ審判シテ全學會ヲ學術的ニ指導スル爲デアル。3日間タゞ木像ノ様ニ會長席ヲ占メテ居ルダケデハ何ノ役ニモ立たヌ。コンナコトデハ會員ヘ學術的精神ヲ鼓吹 (inspirieren) スルコトナドハ思ヒモヨラヌ。

第 二 日

○ ○ 子

23) 動脈缺損部ヲ補充セル靜脈片ノ運命ニ就イテ (第1報) 大連病院外科 北 村 政

實際ニ當ツテ斯様ナコトヲ爲シタイ場合が多々アル, ガ北村君ノ今回ノ發表ハ主トシテ移植靜脈片ノ組織學的検査ニ止ツテ居タ。猶ホ演者ノ血管縫合法ハ單ニ連續的邊周縫合デアツタガ之ダケデハ實地應用ニ際シテ危懼ノ念ガアル。向後ノ研究ニヨリ臨床ニ利用サレ得ル日ヲ待ツ。

24) 筋肉レ線撮影法ニ就テ

千大瀨尾外科 莊 司 康

25) 後縦隔竇撮影法ニ就テ

千大瀨尾外科 鋤 柄 秀 一

局所組織ヲ損傷セス造影劑ガ世ニ現ハレテ以來, 組織又ハ體腔内ヘ造影劑ヲ注入スルコトガ, 殊ニ外科醫ノ手ニ依ツテ行ハレル様ニナツタ。此ノ2題モモノ潮流ニ乗ツテ生レタ1ツノ好イ思ヒ付キデアル。ガ兩者トモニ發現シタ陰影ノ意義ヲ解釋スルコト, 即チ (陰影ヲ讀ムコト) ガ充分デ無カツタ。然シ今後ノ經驗ガソノ讀ミ方ヲ教ヘテ呉レル。多數ノ症例ヲ重ネ臨床上ノ役ニ立ツ様ナ努力ヲ希望スル。至囑。

26) 結核性膿胸竈ニ陳舊性膿胸ノ療法ニ就テ

金大石川外科 設 樂 順

肺結核症ニ對スル肋膜外脊椎側胸廓成形術ヲ膿胸ニ應用シタモノデアル。又同ジ術式ヲ京都府立醫大ノ今津氏が追加シタ。別ニ目新シイ方法デハ無イガ, 我等ニハ日頃カラ此ノ術式ニ對シテ異議ガアル。此ノ術式ニヨツテ胸廓ガ縮少シ胸腔ガ狹隘トナルトキニハ, 肺ハ當然壓縮セラレテ, ソノ作用ヲ營ミ得ナクナル。胸廓ノ縮少ガ永久的デアル以上, 肺モ恆久的ニソノ機能ヲ失フ譯デアル, 換言スルナラバ, 脊椎側胸廓成形術ニ依ツテ該側肺ハ全身生理作用カラ機能的ニ除外サレルノデアル。

然シナガラ結核性及ビ陳舊性膿胸ハ他ノ方法デ, 假令死腔遺殘ガアツテモ治リ得ルモノデアリ, ソノ場合該側肺ハ再ビソノ機能ヲ恢復スルノデアル。

故ニ此ノ術式ハ肺ノ funktionelle Amputation デアツテ, 譬ヘテ見ルナラバ, 四肢ニ於テ他ニ治療方法ガアルニモ拘ラズ, 最初カラ切斷術ヲ行フト同一義デアル。デアルカラ最後のニ試ミルハ宜シイガ, 先ヅ第1ニ行フベキ最良法トハ考ヘラレヌ。

27) 頸部交感神經切除ノ胸腔内吸收ニ及ボス影響ニ就テ 滿大平山外科 森 健 一

追加 頸部交感神経切除術ノ呼吸、呼吸量及ビ胸腔内壓ニ及ボス影響ニ就テ

北大柳外科 玉 眞 俊 雄

玉眞君ガ頸部交感神経ヲ切除スルト反ツテ交感神経緊張度ノ増大ヲ來タスト論ジタノニ對シ、阪大小澤教授ノ質問ガアツタ。即チ交感神経ヲ切除シタコトニヨリ vagushemmend ニ作用スル Xナル物質ガ産出サレルト考ヘラレヌカト。之ニ應ジテ柳教授ヲ始メ齋藤・野口氏等ハ此ノ事實（即チ交感神経切除ニヨル交感神経緊張度ノ増大）ヲ認容シタガ、其ノ本態ニ關シテハ畢竟臆測ヲ以テ駁シ、臆測ヲ以テ應ヘタニ過ギナカツタ。

交感神経ハ四通八達デアツテ 2, 3ノ節狀索神経節ヲ切除シタ位デ「交感神経ヲ切除シタ」ナド大キナコトハ申サレヌ。血管殊ニ動脈管ノ壁ニ分布シテ居ル交感神経網ナドハ Foesster ニヨレバ 1 ツノ系統 (System) ヲ形成シテ居ツテ節狀索ナドトハ無關係デアル。臟器特ニ肺ナドハ血管ノ多イモノデアルカラ節狀索ニ無關係ナル他ノ交感神経網カラモ支配サレテキルト考ヘテモ決シテ失當デハナイ。

マター一方ニ於テ（神経ナリ、腺細胞ナリ、凡テ組織ノ）機能ガ犯サレルト他方ニ於テ相似ノ機能が代償的ニ必要以上ニ昂進スルノハ生物學上ノ原則デアル。

ソレデアルカラ節狀索神経節ノ 2, 3 ヲ除去スルコトニヨリテ此ノ通路ヲ辿ル交感神経ノ機能が障礙サレルト今度ハ代償トシテ其ノ臟器乃至組織中ニ分布シテキル動脈管壁ニ在ル交感神経網ノ機能が昂進シ、ソノ結果全體トシテハ一過性ナル交感神経緊張度ノ増大ガ立證サレテモ何等不可解デハナイデハナイカ。

28) バセドウ氏病ニ對シ甲状腺肥大切除術ノミヲ施シタル場合ト、

頸部交感神経節切除ヲ追加シタル場合トノ比較成績ニ就テ

別府 野口雄三郎、鈴木 格、伊藤 尹

バセドウ氏病眼球症狀ニ對シテ、ホルネル氏徴候ヲ利用シタルノデアルガ、甲状腺切除ト交感神経節切除トヲ系統的ニ組合ハセテ臨床上ニ應用シ且ツ兩者ヲ比較シタルハ佳イ。大學ノ臨床デスベキ程ノコトヲ地方ノ病院デシタルハ更ニヨイ。何事ニヨラズ比較セスト進歩ハセス。單獨ノ存在ダケノ報告ハ非學術的デアル。

29) 腦下垂體前葉ノ甲状腺賦活物質ニヨル實驗的バセドウ氏病ト副腎トノ關係

東大青山外科 天 野 尹

題ガ示ス様ニ腦下垂體、甲状腺及ビ副腎トノ相互關係ニ就テノ實驗成績ヲ述ベタルノデアル。近時學會デハ一般ニ表ノ大ナルヲ以テ誇トスル傾向ガアルガ、此ノ人ニハ表ガ無カツタガ聽ク方ニトツテハ矢張り「耳」カラト同時ニ「眼」カラモ、内容ヲ注ギ込ンデモラツタ方が吞ミ込ミ易イ。

然シ矢駄羅ニ數字ヲ列ベ立テ表ヲ掲ゲ、演壇デ獨リ合點ニソノ表ヲ引キ電ツテ居ル様ナノハ迷惑千萬デアル、ドウシテモ表ハ一目デ明瞭ニ判カル様ニ曲線トカ模型圖等トカデ示シテ貰

ヒタイ。一目瞭然タル表ハ演者ノ頭腦ノ良サヲ示スモノデアルカラ誰ニデモ所望出來ヌ。併シ誰デモガ努力スベキコトデアル。

30) 「アクロメガリー」手術治驗例

京大外科 荒 木 千 里

腦下垂體手術ニハ硬膜外前頭術式ヲ以テ標準術式トスベシト云フ提唱ニ對シ會員聽衆カラ贊否何レノ追加モ無カツタ。

コレハ他ノ Klinik ニ於テモ, 「Fall」ガ無イカラ何トモ言ヘヌ「トイフ譯デアラウ。實際現在ノ Eingeweide-Chirurgie ニ較ベルト, 腦外科ハ獨米ニ對シテ恥シイ狀態ニ在ル。オ互ニ内科トカ精神科トカノ方面ノ人ガ腦外科ヲ理解シテ患者ヲドンドン送ツテ貰ヒ度イモノデアル。袖ガ無クテハ振ラウモ振ラヌ道理。外科學ノ進歩ノ爲ニ義俠心ヲ出シテ欲シイ(追記ヲ見ヨ)。

31) 馬尾神經部孤立性「ノイリノーム」ノ剔出治驗例

岡大石山外科 石 山 福 二 郎

Neurinom ト Neurofibrom トノ區別ハ Cushing デナケレバ一寸判ラヌカモ知レヌ。演者ノ相不變ノ達辯ニヨツテ, 飽カズ且ツ, 理解シ易ク聞クコトガ出來タ。

樂ナ氣持デ聞イテ居テ, 其ノ内容ガ徹底ニ解カル演説ハあまり無イ, ヒドイノニナルト, 立テ續ケニ原稿ヲ讀ミ上ゲタリ, 枝葉ニ互ルコトヲ長々ト述ベタリ, サテ本論ニナツテ時間ニ迫ラレ急ニ原稿ヲ讀ミ上ゲタリ, 或ハ尻切レ蜻蛉ニ終ツタリスルノガマダマダ多イ, 學會ニ於テ與ヘラレテ居ル時間ハ豫メワカツテキル筈デアル。演者ハソノ時間内ニ效果的ナ發表法ヲ講ズルヤウニ努力スベキ義務ガアル。サモナケレバ聽衆ニ對シテ相濟マヌ譯デアル。本會デ演説セントスル會員一同石山氏ヲ模範ニスルガヨイ。

32) 脊髓硬膜囊狹少ト其ノ治療法(第2報)

阪大小澤外科 中 川 正 美

35) 限局性脊髓膜炎ノ臨床知見補遺

慶大整形外科 岩 原 寅 猪

中川君ノ硬膜囊狹少ニ向ツテハ硬膜ノ切開或ハ切除ニ對シ岩原, 來須君等ノ贊成追加ガアツタ。硬膜ノ開放性處置ニ關シテハ周圍軟部組織ノ緻密ナ縫合ニヨツテ Liquorfistel ヲ防止シ得ルコトハ既ニ定説ガアル。

今年ノ此ノ脊髓問題ニ關シテハコレハト感ジタ目新シイモノハ無カツタ。來年ハ宿題デアル。宿題ハ決シテ綜説デハ無イ。來年ハドウカ報告者ノ鮮血ガ脈々トシテ搏動シテキル様ナ靈魂ノアル痛快ナ報告ヲシテ頂キ度イ。

36) 癲癇ニ對スル腦皮質吸引除去法ニ就テ

名大齋藤外科 齋 藤 眞

Krause 等ガ Hirntumor ニ向ツテ行ツタ吸引除去法ヲ癲癇ノ腦皮質切除ニ應用シ, 且ツ蜘蛛膜下ニ之ヲ行ツタノハ, ヨイ思ヒツキデアル。然シ腦皮質切除モ從來ハ後遺症狀多ク, 且ツ永久治癒ハ疑ハシイトサレテキル。果シテ如何ナルモノカ, 教授ノ Dauerresultate ノ報告ヲ早く知り度イ。ソレニ腦皮質ナドハ好ンデ破壊切除スベキモノデハナイ。癲癇持チデアツタナボレオン一世ト齋藤教授トガ時代ヲ同クシテ生存シ此ノ様ナ手術ヲナボレオンニ施シタデモアツタナラバ彼ハ歐洲ヲ席卷シ得ナカツタデモアラウ。

39) 超腹膜腎切開術

京大外科 福間三徳

40) 前方経路ニヨル腹膜外腎臓手術術式

京府大 來須正男, 櫻井雅四郎

同ジ京都カラ時ヲ同ジクシテ同ジ様ナ發表ガアツタ。皮切等ノ末節ニハ差ガアツタガ、根本ノ術式ハ兩者全ク同ジデアル。ソシテ兩者ハ共ニ本法ノ利點ヲ舉ゲ、此ノ術式ニテ腎摘出ガ甚ダ容易ニ行ハレ得ルコトヲ述ベ、福間君ハ『故ニ本法ヲ腎摘出ノ標準術式トセヨ』ト論ジタノニ對シ、櫻井君等ハ腎摘出ノ術式選擇ヲ臨機應變ニ行ヒ『摘出ノ容易ナモノハ從來ノ斜切開法ヲ以テシ、摘出困難ナモノニ本法ヲ用フベシ』ト述ベタ。

摘出ガ「容易」カ「困難」カハ實際ニ手術ヲ行ツテ見ヌト判ラヌモノデアル。マタ困難トカ容易トカハ比較的ノコトデアリ人々ニヨツテモ相違スル。ソレデアルカラ此ノ様ナコトヲ術式適應ノ判定方法ニスルノハ實際上ニハ用フ爲サヌ、此ノ術式デ出來ナイ様ナ腎摘出ハ其他ノ如何ナル術式デモ出來ヌ、此ノ術式デノ組織損傷ハ他ノ如何ナル術式ヨリモ最小デアルト主張スルノデアルカラ徹頭徹尾此ノ超腹膜腎切開術ニ據ルベキモノデアル。所謂摘出容易ナルモノニ從來ノ斜切開法ヲ行フ方ガ超腹膜腎切開法ヲ行フヨリモ何カ利點ガアルノデナケレバ櫻井君等ノ主張ハ筋が通ラスコトニナル。一體摘出容易ナル腎臓ダトカ摘出困難ナル腎臓ダトカ其様ナ腎臓ハ學術的ニハ無イモノデアル。(本術式ハ米子ノ都合博士カラモ發表サレタ)。

41) 硬式・軟式胃鏡ニヨル胃疾患ノ診斷

名大桐原外科 桐原眞一, 朝比奈徳一, 安間捷

追加 胃鏡ニ依ル幽門觀察ニ就テ

名大桐原外科 安間捷

會ツテノ總會デ宮城氏(九大)ガ胃鏡ニ就テ發表シタコトガアル。其頃カラ思フト器具等ハ大分進歩シテキル。然シ幽門ヤ胃内小病變ヲ認知スルノ困難ナコトハ依然トシテ變ラナイ。

早期診斷ヲ必要トスル胃痛ノ初期發見ヲ之ニ賴ルコトハ不可能デアリ又大變ナ誤ヲ來ス基デハ無カラウカ。

42) 切除困難ナル胃及十二指腸潰瘍ニ對スル姑息的胃切除術ニ就イテ

熊大東外科 勝屋弘辰, 山田政信

術式及ビ結論ニ對シテハ別ニ Neues ハ無イ、ガ併シ何事ニヨラズスクノ如ク當リ前ダト考ヘラレテ無批判的ニ行ハレテ來タ從來ノ事柄ヲ捕ヘテ再検討シ、認識ヲ新タニシテ改良ヲ促スコトハ行詰リカケテ來タ臨床外科ヲ新タニ見直シテ更ニ進歩ヘノ途ヲ取ラセルニ必要ナコトデアル。

44) 小腸ノ吻合術式ニ關スル實驗的研究(第1報)

九大後藤外科 八木九州男

此ノ實驗モ從來ノ術式ノ再検討デアルガ、單ニ「抗張力」トイフ物理學的條件ノミデ結論的ニ云々スルハ宜シクナイ。

48) Ampulla recti ノ異常擴大ハ何ヲ意味スルカ

京大外科 庄山省三

吾々外科醫ノ日常多ク遭遇スル疾病ノ1ツノ徴候デアリ、且ツ又容易ニ検査シ得ルモノデア

リナガラ、多クノ人ハ此ノ事實ヲ無視シテ何モ考ヘテ居ナイ。トコロガ庄山君ハコノ誰モガ不問ニ附シテキルコトヲ捕ヘテ明快ナ解釋ヲ與ヘタ。

實際近時ハ斯様ナ方面ノ研究發表ガ學會カラ蔭ヲ潜メテ來タ。ドウシテモ診斷・治療・豫防ノ上ニ何等カ進歩ヲ企テル様ナ發表デナケレバ面白クモナイシ、役ニモ立タナイ。今後會長モ會員モ餘程此點ニ注意セネバナラス。

Goethe ノ言ツタコトニ “Der Menschheit Schnitzel kräuseln” ト言フノガアルガ、一生懸命ニナツテ「紙屑」ヤ「カンナ屑」ヲ捲キ曲ゲタトコロデ、ソレガ「人生」ニ對シテ何カ役ニ立ツカ？ 何ノ役ニモ立タヌノdealル！ 研究ノ努力ヲスルニモ診斷・治療・豫防ノ何レカニ關係アルコトヲスルガヨイシ、サセルガヨイ。若キ學徒ノ研究ノ努力ヲ無用ノ地ニ靡セシムルコトハ一種ノ罪惡dealル。

49) エツク氏瘻孔ヲ以テセル「イレウス」ノ研究

城大小川外科 高 田 誠 一

50) 「イレウス」時胃液分泌亢進ト「イレウス」中毒症狀發現ニ就イテ

城大小川外科 金 晟 鎮

追加 Parabiose-Ratte ラ以テセル高位腸閉塞ノ實驗的研究

城大小川外科 朴 乾 源

三者トモニ城大小川外科ヨリノ提出デ小川教授ノ從來ノ提唱、即チ Histamin + Xナルモノヲ Primäres Ileustoxin デアルトシ、コノモノハ閉塞下部腸管カラ生成サレ、其他ノ各種臟器組織ニ於テモ形成作用ガアルト強調シタノdealル。

之ニ對シテ阪大岩永外科ノ數氏が立ツテ、小川教授等ノ言フ Xナル Histamin 様物質トハ、彼等ニヨツテ化學的ニ rein ニ darstellen サレ得タ Histaminase デアルト喋タシ、又 Histamin ハ閉塞腸管上部ニ於テ產出セラレルモノdealルト駁シ立テタ。ソノ結果小川、岩永兩教授ガ立ツテ論ジタガ、岩永教授ハ Histamin 一點張り、小川教授ハ高位腸閉塞一點張りデ討論デハ無クオ互ニ勝手ナコトヲ喋ベリタテタノdealル。ソレデ鹽田教授ガ堪ヘ兼ネタラシク起立シテ、昨年此ノ問題ヲ宿題トシテ擔當シタ關係ガアルノデ『「イレウス」ノ毒素、ソレハ何物dealルカ知ラスガ兎ニ角其ノ毒素ハ閉塞腸管上部カラモ出來ルシ又、下部カラモ出來ヨウ。然シ「肛門デ腸管ガ閉塞」サレタトスルナラバソノ下部ニハ毒素ガ出來ヤウニモ出來ヌ』（一同大笑）ト言ツタ。

研究モ凝リ過ギルト此ノ様ナ討論デ無手勝流的ニ即座ニヤラレテ了フ。鹽田教授ノ討論ハ實ニ鮮カデアツタ。コレdealルカラ學會ハ廢メラレナイ。

Histamin ヤ Histaminase ヤ其ノ出來場所ノ上カ下カナドハ Ileus ノ 診斷・治療・豫防ニ向ツテハ全く以テ「紙屑」カ、「カンナ屑」カノ様ナモノdealル。ソレヲ何年モ費シテ何人掛リカデ彼方ヘ捲キ、此方ヘ曲ゲテ見タ所デ Menschheit ニ向ツテドノ位ノ用ニ立ツノdealルカ。

第 三 日

△ △ 子

第三日午前ハ蟲様突起炎及ビ腹膜炎ニ關スル演題ガ可成リ多ク、追加ガ續出シ相當賑ハツタ。

蟲様突起炎ニ關スルモノデハ

51) 妊娠ト蟲様突起炎ニ就テ

慶大 若 林 研 爾

52) 蟲様突起炎ノ統計的觀察

東大鹽田外科 佐 伯 重 治 (外 5名)

追加2, 急性蟲様突起炎ニ對スル余等ノ治療方針ト其ノ成績

東京深川病院 福 田 保, 近 藤 壽 一

ナドノ演説ガアツタ。

51) 若林君ノハ13年間ニ處置シタ3699例中妊娠ニ關スル統計的觀察デアリ、52) 佐伯君ノハ11ヶ年ニ治療シタ本症、2218例ニ就テノ指標ノナイ漫然タル統計的觀察(?) デアル。之等ノ統計ノ結果、何事モ觀察サレズ、積極的ニ新シク高調スル何物モナイ。症例ノ多イノニ驚イタナド言フ人モアツタガ吾等ハ學術上何等ノ得ル所モ無イノニ呆レタ。

52) 追加2。福田君ノ演説ハ前 2氏ノ無駄骨の統計ニ比較シテ遙カニ面白イ。〔蟲様突起炎ハ診斷ノ附キ次第、時期ヲ選バズ手術ヲ行フ〕ト言フ方針ノ下ニ 4ヶ年間ニ 595例ノ手術ヲ行ツテ其ノ成績ヲ統計ニ匡シタモノデアル。其ノ結果、此ノ方針ハ 〔適當ナル方法ト注意トヲ以テスレバ所謂 Intervaloperation マデ不安ナル經過ヲ待ツヨリモ却ツテ安全デ經過日數モ短縮サレル〕コトヲ證明シタト云フノデアル。此ノ統計ハ注目ニ値スル。

53) 急性腹膜炎ノ心臟ニ及ボス影響 (心臟動作電流計ニヨル變化)

岡山醫大津田外科 平 井 出 正 三

實驗の腹膜炎(犬)ノ心臟動作電流計圖 (E. K. G) ノ變化ヲ國產ノ L イ ン ク 式心臟動作電流計デ觀察シタモノデアル。〔其ノ結果認メ得タ變化 (心臟刺戟傳導時間及ビ T 波ノ變化) ハ腹膜炎初期ニ於テハ限局性ノ内臓血管充血ニ依ル心臟ノ血壓下降ニ因ルモノトナシ、腹膜炎後期ニ於テハ直接心臟ニ影響セラル、爲ナリト考フ〕ト云フノデアル。唯ダソレダケノ事デアル。此ノ實驗結果ヲ腹膜炎ノ診斷或ハ治療ニ如何様ニ利用シヨウト云フノデモナイ。之デハ單ニ E. K. G. ノタメノ E. K. G. デアルト見ラレテモ致シ方アルマイ。

元來 L イ ン ク 式裝置ハ曲線描畫時ノ Inertia (慣性) ガ大デアル爲メ精密ナ研究ニハ不適當ナモノダトサレテキル。唯ダ持運びガ便利デ且ツ視テキル中ニ曲線ガ描カレルノデ寫眞現象ノ手數ガ省ケルト云フ利點ハアルケレドモ、之ト L 精細ナ研究ニ不適當ダト云フ大キイ缺點トヲ差引キ勘定スル譯ニハユカナイ。

從來知ラレテ居ル種々ナル Cardiographie ト Ink 式トヲ比較シテ Ink 式ガ何ノ位ノ能力ヲ示スカラ明白ニスルカ或ハ絃線電流計式ノ裝置ヲ以テ精確ナ研究ヲ積ムトカシテ貰ヒタイ。

ソレデ無イト學術ノ進歩ニハ何ノ役ニモ立チハセヌ。紙屑ヲ機械デ曲ゲテモ指先キデ曲ゲテモ

Menschheit = 向ツテ役ニ立タヌコトハ同一デアル。

55) 追加 大腸菌尿中移行ノ臨床的意義ニ就テ

京大外科 佐々木義孝

軍隊式演説デヨク分ツタ。〔健常尿中ニ大腸菌ヲ證明シタナラバソレハ大腸菌乃至其他雑菌ニヨル腹膜感染ノアル證據ダ〕ト云フコトヲ臨床的及ビ實驗的ニ立證シタモノデアル。茲ニ急性腹膜炎及ビ腹膜炎ヲ發生スル眞アル疾患ノ診斷上重要ナル 1ツノ新シイ據リ所が見出サレタ譯デアル。吾人ハ實用價值ノ零デアル 1000ノ動物實驗ヤ何萬何千ノツマラヌ統計ナドヨリモ 1ツデモ新シイ臨床的應用ヲ貴ブモノデアル。

同君ノ演題ハ會長ノ不注意ノ爲デアルカ危ク抹殺サレ様トシテ聴衆ノ再三ノ注意ニ依ツテ始メテ行ハレルニ至ツタモノデアル。ツマラヌ演説ヲ取上ゲテ、此ノ様ナ演説ヲ置キ忘レ様トスルノハ遺憾ナコトデアル。

56) 穿孔性腹膜炎ノ治療、附、吸引療法ニ就テ

長野 小池百藏

演者考案ト稱スル往診用輕便吸引器（自轉車用空氣ポンプノノ瓣ヲ逆ニ取り附ケタモノ）及ビ排膿管ノ供覧ガ主デアツタ。化膿性腹膜炎ノ治療ニ當ツテ排膿法ハ必然的重要ナル處置法ノ 1ツナルコトハ今更言ヲ俟タナイ。日常輕便有效ナ排膿法ノ必要ニ迫ラレルコトガ屢ミアル。平生從來ノ排膿法ノ吟味ハシテ居テモ、イザトナルツイ慣レ來ツタ方法ノミ頼リタクナルモノダ。改良ヲ思ヒ附ケバ斷然直チニ試作シ試用スルト云フ傾向ハ貴イモノデアル。何デモ實行、實現ニ限ル。

追加1, 晩期急性汎發性腹膜炎ニ對スル腹腔持續洗滌法ニ就テ

岡山 榊原 享(外 3名)

追加2, 急性腹膜炎ノ一新療法

金澤醫大石川外科 木村 巖

此ノ追加ハ何レモ腹腔ノ持續洗滌法デ一新療法ト銘打ツ程新シイ獨創的ナモノデハナイ。

榊原君ノハ晩期急性汎發性腹膜炎（演者ハ之ヲ最早他ノ一切ノ方法ヲ以テシテモ手ノ盡シ様ノナイ腹膜炎ト云フ）ニ自働保温裝置ヲ通ジテ〔アドレナリン〕加(熱)食鹽水(40°—37°C)ヲ以テ持續洗滌法ヲ行フト云フノデアル。

木村君ノハ洗滌液ヲ 0.05%—0.5%〔クロラミン〕T溶液加(冷)食鹽水ヲ以テスルノデ然カモ限局性ト汎發性トヲ問ハズ凡ソ急性腹膜炎ニハ片ツ端カラ此ノ所謂新療法ヲ行フト云フノデアル。金澤アタリノ新聞ニデモ特筆大書サレサウナ偉イ新療法デ御座ル。

榊原君ノ演説態度ハ石山福二郎君ト相並ンデ、イツモ元氣横溢、男性的デ、簡潔要ヲ得テ居テ、トテモ氣持ガヨイ。京大外科教室員モ之ヲ見習フガヨイ。毎年何カ發表スル所亦活氣アル臨床家トシテ敬意ヲ表サレテヨイ。又追加演説ノ不足ヲ補フ爲メ別紙印刷物ヲ演説前一般會員ニ配布スル處ナド自己ノ演説ニ對スル熱意ノ程モ偲バレテ嬉シク思ハレタ。小池氏ノ質(愚)問ニ對スル應答振リナド鎧袖一觸ノ慨ガアツタ。

併シノ様ナコトヲシテモ腹腔内ノ膿ハ残ラズ出ルモノデモナイシ、亦全部排膿セネバナラ

ヌ必要モナイモノデアル。膿ガアルノデコソ菌ガ死滅モシ消失モスルノデアル。此ノ場合ハ排膿ヨリモ溫熱ノ方ガヨリ多ク治療ノニ作用スルモノト考ヘネバナラス。

宿題報告 急性腹膜炎

名 大 河石九二夫助教授

京府大 横 田 浩 吉教授

本問題ハ外科醫ニ取ツテ特ニ關係ノ深イモノデアル。兩氏ハ如何ニ此ノ難問ヲ解決スルヤ、兩氏 1ヶ年ノ努力ニ依ツテ特ニ治療ノ方面ニ於テ如何ナル新天地ヲ壺中ニ開拓セルヤ。期待ハ大キク、興味ハ深イ。聴衆堂ニ溢レ文字通りニ立錫ノ餘地モ無カツタ。

河石助教授先ヅ演壇ニ立ツ。氏ハ基礎醫學篇ト臨床篇トニ分ツテ2時間半、一滴ノ水モ飲マズ滔々汨々ト述べ立テタ。

但シ其ノ内容ハ1綜説ニ過ギナイ。宿題報告トシテノ努力ハ認メルガ學術的價值ハ遺憾ナガラ少シモ認メラレナイ。『X線デ液面像 (Spiegelbild)ヲ立證シテ診斷ヲ下シ仰臥位デ一番低イ部ニ排液法ヲ施セ』ト云フノガ最後ノ結辭デアル。地方ノ田舎開業醫ニ向ツテハコレ位ガヨイカモ知レヌガ日本外科學會ノ宿題報告デハ少々ナサケナイ。『膿ハ是非トモ全部完全ニ排除シテ了ハネバナラスモノ』トノ考ヘガコビリ着イテ居ツテ、炎症病理學上、膿球ノ喰燼作用上ノ必要性ニ想到セヌノハ根本的ニ遺憾デアル。

演説態度ハ立派デイカサマ大學的デアツタカモ知ラスガ、演説内容ハ貧弱デ、何等研究的ノ頭腦ガ働イテ居ラズ、マルデ幼稚園的デアツタ。演説モ聲ガ小サク語尾ガ不明デソレニ圖表ガ紙製デ「ガサガサ」音ガシテ不快。「徒ラニ多過ギル表」ト「演者」トノ連絡不統一デ豫行練習不足ノ跡が見エテ、後半全ク欠伸ヲ禁ジ得ナカツタ。

横田教授ノ報告ハコレハマタ近年稀ニ見ル立派ナ内容ヲ持ツテキタ。氏ハ元來能辯ナ方デハナイ、俗耳俗目デハ演説態度ハ前者ニ如カナカツタカモ知レヌ。然ルニ3時間能ク聴衆ヲ倦マシメナカツタノモ全ク内容ノヨサニアツタ。訥々タル一言一句、津々タル新味ガアツテ Professorノ貫録ハ遺憾ナク發揮セラレタ。滔々ト流レテモ下水ハ下水、滴々ト落チテモ深山ノ清水ハ清水ダトノ感ヲ深カラシメタ。

内容ノヨサトハ始終一貫シタ Idee ノアルコトダ。此ノ一點ガ即チ近年稀ニ見ル名報告ト稱スル所以デアル。急性腹膜炎ト云フ廣汎ナル問題ヲ捉ヘ來ツテ、『本病ニ特有ナル血行障礙ト胃腸運動障礙トノ討究』ナル目標ヲ以テ終始貫徹シテ居ル。

即チ實驗の方面ニ於テハ此等ノ特有ナル障礙ノ由來ヲ明カニシ、之ヲ除去スル方法ヲ追究シテ治療方針ヲ確立シ、臨床の方面ニ於テハ此ノ方針ノ下ニ治療シテ果然立派ナ成績ヲ擧ゲテ居ル。眞ニ世界外科學界ニ於ケル一偉觀デアル。

之ハ先年大澤助教授ガ食道外科ノ宿題報告ノ際ニ年來烏瀉教授ノ主張タル平壓開胸術ニヨツテ食道外科建設ノ礎石ヲ据エタノト好一對、近年宿題報告中ノ兩花形デアル。自分等ハ今回ノ横田教授ノ報告ニ對シテ萬腔ノ敬意ヲ拂フ者デアル。但シ聴衆中専門家デナイ者ニハ少々難解

デアツタカモ知レヌ。ソレダケ此ノ報告ハ眞ニ學術的價值ノ充實シタモノデアツタ。

横田教授ノ演説ハ關西辯丸出シデ然カモ一點飾リ氣ノナイ眞面目ナ處、自然ニ學者的態度ガ現ハレテ居テ誰ニモ好感ヲ與ヘタデアラウ。唯惜シムラクハ聲ノ小サカツタコトデアル（河石助教授モ同様ノ非難ハ免ガレナイ）。

如何ニ立派ナ業績ヲ發表シテモ聽キ取レヌ人ニハ役ニ立タヌ。惜シイコトデアル。千里ヲ遠シトシナイ聽衆ノ爲メニ次回カラハ是非『擴聲器』ノ設備ヲ必要トスル。コレハ次回會長ヘノ註文デアル。

河石、横田兩氏ノ報告形式ニ共通的ナ缺點ガアル。ソレハ實驗の方面ノ報告（紹介）ガ繁ニ過ギ、長キニ亙ツタ事ダ。何時モ報告者側デハ「時間ガアリマセンカラ………」ト度々嘆聲ヲ漏ラシ、會員（會長）側デハ「時間ヲ短縮シテ下サイ」ト叫ビタクナルノモ實驗報告ノ繁雜ニ過ギルタメデアル。

吾々會員ガ此ノ宿題報告ニ期待シタモノハ『診斷ト治療』ノ方面ニ於テ何等カノ進歩ハナキヤ、即チ進歩シタ臨床の方面ノ詳細ナ報告ヲ期待シタノデアル。報告ノ重點ヲ動物實驗方面ニ置クコトハ本末顛倒デアル。

現ニ河石助教授ノ2時間半、横田教授ノ3時間ノ中、大部分ノ時間ハ實驗の方面ノ紹介ニ取ラレテ居ル。河石助教授ノ斯様ナ時間ノ分配ハ或ハ豫定ノ行動デアツタカモ知レナイ。横田教授ノ實驗成績ハ直接臨床の方面ニ影響スルモノデアツテ河石助教授ノソレトハ多大ノ差ハアルモセヨ、實驗の方面ノ紹介ガ長キニ失シタトノ非難ハ前者同様免カレナイ處デアル。

前者ハ基礎醫學篇デ長時間聲ヲ搾ツタ結果肝心ナ臨床篇デハ最早ヤ聲ガ立タナクナリ演説ハ益々聽キ苦シクナツタ。一方聽衆一同ハ咬ミ殺シ終ヘナイ欠伸ト眠ム氣ニ惱マサレルカラ、ヤツト演説ガ終ルト其ノ瞬間自制心ニ癲癇ヲ來シテ會場内ヲ忽チ煙草ノ煙幕デ包ンデシマツタ。5分間ノ休憩時間デハ換氣モ出來ナイマ、二次演者ハ演壇ニ立タサレタ。

今後ノ宿題報告者ニ望ム、實驗的の方面ノ紹介ハ出來ルダケ簡單ニ述ベラレヨ。之ガ希望ノ第1デアル。

次ニ今1ツ、今後ノ報告者ニ希望スルコトガアル。ソレハ學會3日間ニハ宿題ニ關係アル演説ガ必ズアル。之等ノ演説ニ對シテ宿題報告者ハ其ノ報告演説中ニ簡單ナル批判ヲ試ミラレクイ。宿題報告前ニナサレル此等ノ演説ハ必ズ多クノ人カラ關心ヲ持タレテ居ル部分ニ相違ガナイ。從ツテ此等ノ演説ノ裏面ニハ報告者ニ對スル間接ナ質問ガアリ、時ニハ明カナ挑戰サヘモ含マレテ居ル。此ノ質問ナリ挑戰ナリニ向ツテ宿題擔當者ハ一言アツテ然ル可キダト思フ。演説時間ノ使ヒ方ヲ此ノ方面ニ向ケラレテハドウカ。『宿題ニ關係アル演説ノ簡單ナル批判』之ガ今後ノ宿題擔當者ニ對スル希望ノ第2デアル。

今年ノ閉會ノ光景ハヨカツタ。第1、赤岩會長ノ閉會ノ辭ガ氣ニ入ツタ。『本學會ノ演説ハ直接臨床の問題又ハソレニ關係スルモノガ多カツタ。即チ實驗的の方面モ漸次臨床的の方面ニ向ヒツ

ツアリ、或ハ向ハントスル努力ノ認メラル、モノ、多クナツタ點ハ日本外科學會ノ爲メ欣快ニ堪ヘナイ。然シ外國ノ此ノ傾向ニ比較シテハ尙多少ノ遜色アルヲ免レナイ。今後益々此ノ傾向ノ助長ニ努力セラレンコトヲ望ム』ト。コレハ會員一同ノ大ニ言ハント欲スル所デアツタ。

明年ノ學會カラハ臨床ト關係ノ無イ演説ハ極度ニ制限スルコトヲ次回會長ニ御願ヒシテ置ク。(完)

附 記

○ ○ 子

印刷校正中ニ本間武吉氏ノ日本外科學會縦横記(五)ガ届イタ。ソレニハ 30)「アクロメガリー」手術治驗例(荒木千里)ノ報告ニ對シテ、「實際ニ荒木君ガ「メス」ヲ執ツタカ或ハ鳥瀉教授ガヤツタカ云々」ト述ベテキルガ、手術操作ハ始メカラ終リマデ荒木講師ガシタノdeal。否、荒木講師ガサセテ貰ツタノdeal。

京大デハ一切ハ教室主任(現在デハ磯部・鳥瀉兩教授)ノ主宰ノ下デ行ハレテ、一切ハ「京大外科」ガシテキルコトト理解サレテキルノdeal。

コレハ猪子・伊藤兩教授カラ引キ繼イダ教室ノ大方針デアツテ、大澤助教授ニ對シテハ兩教授相談ノ結果『食道外科』ヲヤラセル爲ニ 2 ツノ講座ノ材料ヲ全部同人ニ與ヘテ研究サセタモノdeal。

荒木講師ニ向ツテモ亦タ然リデ、4 年前カラ『荒木講師ハ腦脊髓外科ニ就テ研究スベシ』ト兩教授カラ命令ガ下サレ、兩講座ノソレニ關スル材料ハ差支ヘ無イ限リ當該教授カラ同講師ニ與ヘラレテ、ソレニヨツテ荒木講師ハ不斷ノ努力ヲシテキル次第deal。

京大外科室デスルコトハ決シテ(教授・助教授・講師・助手等)一個(私)人ノ名聞トカ喧傳トカノ爲デハナイ。教授ハ一定ノ方針ヲ授ケ自分等ノ血ト肉トdeal臨床材料ヲ割キ與ヘテ、斯道ノ進歩ノ爲ニ後進ヲ養成シテキル次第deal。何人ニデモサセレバ出來ル程ノコトトハ知ラズニ「誰ガ執刀シテ手術ヲシタカ」ナドノ詮議立テハナサケナクナル。

教授ヤ助教授ヤ講師・助手ナドガ『アノ手術ハ乃公ガシタ。乃公ガスル。他ニハ出來ヌ。他ニハサセヌ。』ト争ヒ競フ様ニナツテ上下交々名(?)ト利(?)トヲ取ル様ニナレバ、眞個ノ教室モ出來ナイシ、眞個ノ學術モ發達スル譯ハナイ。

京都外科集談會

4 月 例 會

京大樂友會館ニ於テ 4月20日午後 6時半ヨリ開會、下記ノ臨床例報告ニ次デ井上博士ノ講演ガアツタ。

臨 床 例

下腿肉腫ノ肺臟轉移(X線寫眞供覽)

内 藤 行 雄 君

診断上興味アリ シ子宮筋腫ノ1例

癌ノ骨轉移

男性ニ見タル乳癌ノ2例

偏側性眞性汎發性乳房肥大症ノ1例

縦隔竇 X線診断上ノ食道ノ地位

陳舊性先天性股關節脱臼ノ治療成績

化膿セル膽嚢乳嚢狀囊狀腺腫ノ1例ニ就テ

2, 3ノ臨床例

山中四郎君

吉田矢八君

内藤行雄君

市川博信君

磯邊昌治君

吉益博士

山崎勳君

波多腰博士

特別講演

早期腎臓結核ニ於ル膀胱變化

井上五郎博士

5月例会

京大樂友會館ニ於テ 5月21日(月)午後 7時ヨリ開會, 下記ノ外國雜誌抄讀ニ次ギ臨床例報告アリ, 亦癩問題ニ關シテ皮膚科教室小笠原登氏ノ講演等アリ, 盛會デアツタ。

雜誌抄讀

腫瘍剔出後ノ肺臓創面ノ處置ニ就テ

蟲様突起ノ自然切斷

動靜脈吻合ニ就テ

肺結核ニ就テ

井口洋平君

磯邊昌治君

安江高助君

田島猪三夫君

臨床例

蟲様突起炎手術ニ就テ

限局性脊髄膜炎ノ1例

追加

稀有ナル斜頸ノ1例

上部空腸結核ノ1例

病因ヲ誤解シタル「イレウス」ノ1例

宇野 兎君

高 橋 君

荒 木 講師

稻 本 晃君

蔭 一 雄君

藤 原 紫郎君

特別講演

予ノ統計ヨリ見タル2,3ノ癩問題

小笠原講師

彙

報